



JRでお越しの方は

京都駅	12分	高槻駅	5分	茨木駅	徒歩 約5分
大阪駅			14分		
三ノ宮駅			41分		

阪急電鉄でお越しの方は

京都河原町駅	25分	茨木市駅	2分	南茨木駅	徒歩 約10分
大阪梅田駅			18分		
西宮北口駅	9分	十三駅	14分		

大阪モノレールでお越しの方は

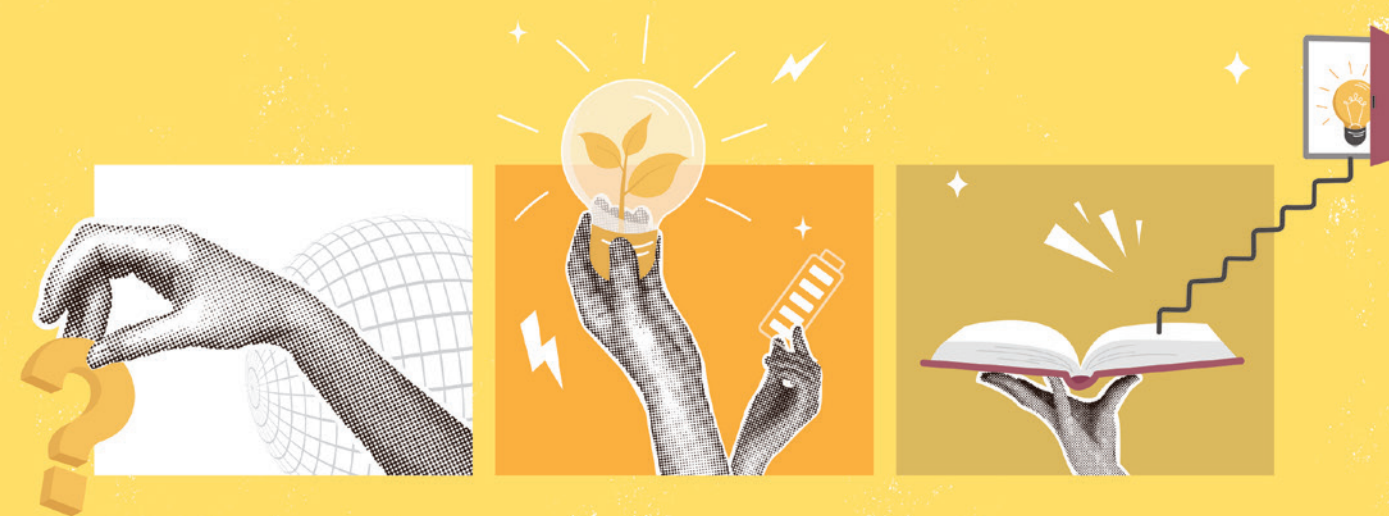
門真市駅	13分	南茨木駅	徒歩 約10分
大阪空港駅	21分	宇野辺駅	徒歩 約10分

※所要時間には乗り換え時間を含みません。

大阪いばらきキャンパス

政策科学部

College of Policy Science | Ritsumeikan University



その問題、あなたならどうする？



\ 政策科学部をもっと知ろう /

政策科学部ホームページ www.ritsumei.ac.jp/ps/

立命館大学 政策科学部

Tel (072) 665-2080 Fax (072) 665-2089

立命館大学 大阪いばらきキャンパス

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150



政策科学部とは？

私たちの世界には、日々さまざまな問題が起こっています。

これらの問題は、国や地域を超え、時代を超え、お互いに関連しあい、影響しあっています。

戦争、災害、環境、飢餓、高齢化、雇用、犯罪—どの問題も放置することはできません。

問題の背後には苦しんだり、悲しんだり、悩んだりしている多くの人々がいるからです。

こうした問題に対し、広い視野をもって理解し、その解決を展望し、

時代を構想できる人材を育成することを目指し、政策科学部は設立されました。

現代社会が抱える複雑な問題は、1つの学問領域で完結するものではなく、

人文科学・社会科学・自然科学など、さまざまな学問の観点から捉える必要があります。

政策科学部では「**公共政策**」「**環境開発**」「**社会マネジメント**」の

3つの学系を柱とした学びを展開しています。

それぞれの学系を系統的・横断的に履修することで、

既存の学問の壁を超えた視点から、

問題発見、現状分析、政策提言を行い、

よりよい社会の創造を目指します。



Policy Science

01 小集団で学ぶ

学びの特色

仲間とともに学びながら、発見→調査→探求→発信のサイクルを実践

政策科学部では、1～4回生のすべての学年で「政策科学演習科目」という小集団授業を受講します。政策科学演習科目では、ディスカッションやグループワーク、現地調査などを通じて、批判的思考や論理的な表現、実践力を身につけ、学びの集大成として「学士論文」を執筆します。

政策科学演習科目 4年間の流れ



政策科学の学びの出発点です。リサーチとプレゼンテーションを繰り返し行うことで、論理的思考力・批判的思考・多角的思考・表現力・文章力などを身につけます。

共通のテーマに関心のある学生と研究グループ(プロジェクト)を編成します。プロジェクトごとに現地調査を行い、社会問題や政策課題への理解を深めます。

ゼミナール(ゼミ)に所属し、政策構想力を深めていきます。これまで学んできた研究手法と、様々な学問分野での学びから、研究テーマを決めていきます。

政策科学部での学びの集大成となるのが「学士論文」です。論文の執筆過程で得た、調査力、行動力、発信力は卒業後の進路においても役に立つでしょう。

ゼミ紹介

城戸ゼミ「先進国の政治、行政、政策」

城戸ゼミでは、ゼミ生各自の関心に基づき、日本を含む先進国の政治・行政・政策を政治学の視点から分析することにより、社会課題の現状把握と要因の研究を行います。他大学との合同ゼミや学部内のアカデミックフェスタでの報告を目指して和気あいあいとした雰囲気でのゼミをしています。

城戸 英樹 政策科学部 教授



制度や政策の仕組みへの理解を深め、社会問題の解決に貢献したい

社会問題の解決を目指し、幅広い分野を横断的に学ぶことによって複数の視点から社会問題を考えられる政策科学部へ。ゼミでは、「若年層の投票率向上にインターネット投票・ネット選挙は効果的なのか」をテーマにグループ研究に取り組み、実際の選挙結果などを調査して、インターネットの活用が投票行動にどのような影響を与えるのかを分析、研究報告会で最も高い評価を得ることができました。インターネットが選挙



に及ぼす効果は限定的であるという分析結果は予想とは異なるもので、先入観に捕われず、根拠やデータを基に物事を多角的に考える大切さに気づかされました。また、グループリーダーを務めたことで、さまざまな意見を整理しまとめる力やコミュニケーション力が向上したと感じています。今後は政治学や行政学を専門的に学び、制度や政策の仕組みへの理解を深めて、将来は国家公務員として制度設計や政策形成の面から社会問題の解決に貢献したいと考えています。

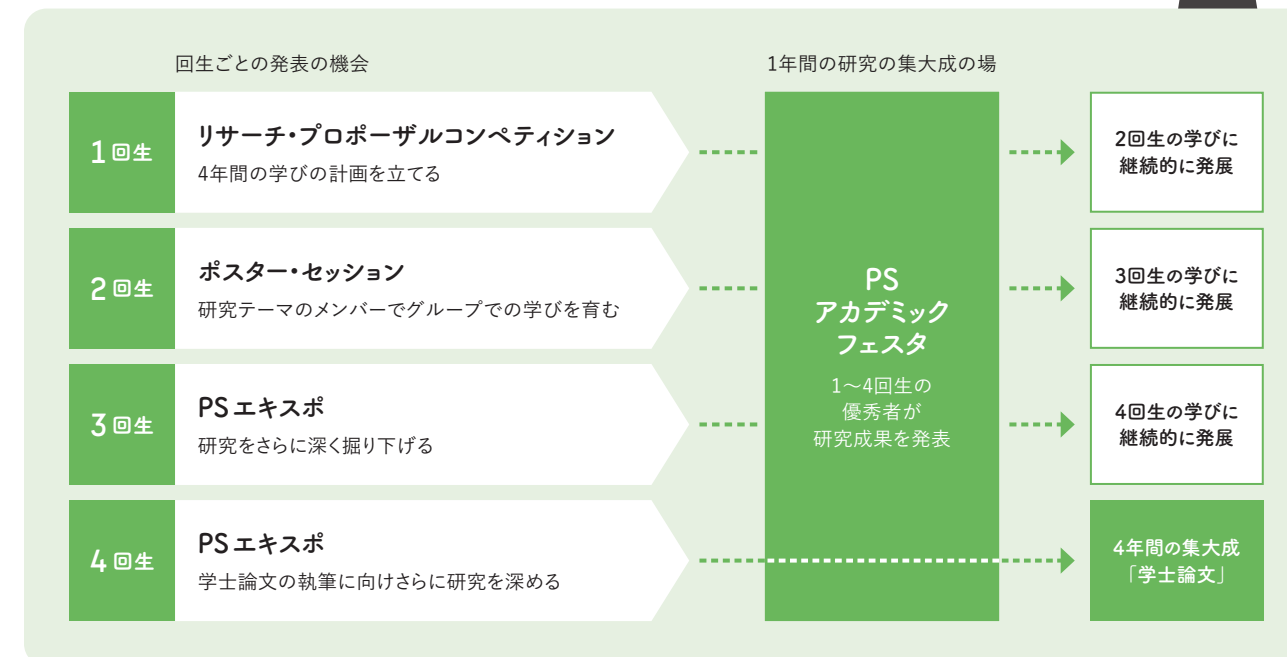


榎本 侑生 さん

政策科学部 政策科学科4回生
兵庫県・六甲学院高校出身

PSアカデミック・フェスタ

政策科学部では研究を行うだけでなく、報告書や論文にまとめるとともに、研究の成果を発表することも重視しています。研究と発表を繰り返すことにより、問題を発見し、解決する「政策実践力」だけでなく、コミュニケーション力やプレゼンテーション能力といった実社会で求められる力も鍛えます。豊富な発表機会のなかでも、12月に行われる「PSアカデミック・フェスタ」は、各回生の優れた研究成果の発表やコンペティションを行う、政策科学部の1年の学びの集大成となるイベントです。



2024年度 PSアカデミック・フェスタ受賞テーマ(一部抜粋)

3・4回生 最優秀賞

日本における養育費確保の現状と課題および対応策の研究
～協議離婚に焦点を当てて～

2回生 最優秀プロジェクト

Earthquake Preparedness for Vulnerable People in Khlong Toei
:Community Intervention Using Gaming Simulation

政策科学専攻1回生 最優秀賞

SNS時代における公共放送の選挙報道フレーミングが
政治意識に与える影響

CRPS専攻1回生最優秀賞

Analyzing Place Attachment in Kloeng Toey Residents
: Challenging the Relevance of Relocation Policies

茨木市長賞

Exploring The Challenges of
Women Migrant Care Workers from Myanmar
: The Japanese Context

02 実践的に学ぶ

学びの特色

国内・海外の政策現場で「実際」を読み解く

政策科学部では、「PBL(Project/Problem-Based Learning:問題解決型学習)」に重きをおいています。

PBL型の学びとして最も特徴的なのが、2回生で受講する「研究実践フォーラム」です。

この科目では、共通のテーマに関心をもつ学生同士で研究グループ(プロジェクト)を編成します。

プロジェクトは、学生が自主的にテーマを設定した「自主プロジェクト」と、教員がテーマを提案する「特定プロジェクト」に分かれます。

いずれのプロジェクトも実際に政策課題に取り組んでいる現場へ赴き、フィールドワークを行います。

研究実践フォーラム プロジェクト例

特定プロジェクト[海外] タイ プロジェクト

経済格差や高齢化社会がもたらす、住宅と都市計画の課題について学ぶ

貧困家庭へのインタビュー調査



特定プロジェクト[海外] フィリピン プロジェクト

都市スラムや太平洋戦争の戦跡への訪問を通じ、「貧困」を経済的、社会的、政治的、歴史的といった多様な側面から学ぶ

貧困地区にある小学校への訪問



特定プロジェクト[海外] カナダ プロジェクト

移民国家・多文化主義であるカナダの現状と課題を把握する
国際機関・外交の場で働くことについて考える



在カナダ日本国大使館でのヒアリング調査

特定プロジェクト[海外] 日韓相互理解プロジェクト

現地スタディツアーや現地大学生との交流を通じて、日韓の相互理解を深め、関係改善を促進するための政策研究を行う



特定プロジェクト[国内] 南信州プロジェクト

農山村・地方都市における持続可能な地域づくりとそのための政策のあり方を考える



特定プロジェクト[国内] 京都市右京区プロジェクト

「オーバーツーリズム」をテーマに、地域活性化と住民生活ニーズへの対応を総合的に考える



特定プロジェクト[国内] Ashiu プロジェクト

京都府南丹市にある芦生の森を事例に、森林保全とその管理活動について学び、植物や動物との共生、環境影響、環境教育について理解を深める

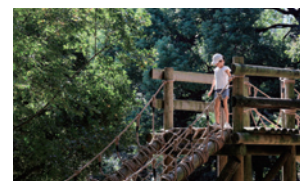


芦生の森

自主プロジェクト

ななめの関係で育む地域コミュニティ
～プレーパークが子どもに与える影響とは?～

公園とプレーパークを比較し、プレーパークが地域コミュニティの形成や子どもの非認知能力の向上にどのような影響を与えるかを明らかにする



※実施プロジェクトは年度によって異なります

プロジェクト紹介:特定プロジェクト[海外]タイプロジェクト

タイは他のASEAN諸国に比べて急速な経済成長を遂げているものの、経済格差は依然として残っています。

貧困層の高齢者を対象とした

居住環境の改善や教育課題の解決をテーマとし、

現地のチュラロンコン大学教員や実務家による講義、

高齢者施設、公的機関・NGOなどでの現地調査を行い、

タイの背景の理解、問題点の抽出から政策提言を行います。



〈スケジュール〉

DAY1 (9月3日)

- オープニングセレモニー
- チュラロンコン大学教授の講義
- コミュニティ訪問と講義受講、
- チュラロンコン大学によるウェルカムパーティ

DAY2 (9月4日)

- 大学講義
- コミュニティ訪問と講義受講

DAY3 (9月5日)

- コミュニティ訪問と講義受講
- 施設利用者へのインタビューとアンケート調査

DAY4/DAY5 (9月6日・7日)

- 学生の共同活動

DAY6 (9月8日)

- 各チームの調査活動(雨天のため当日変更)

DAY7 (9月9日)

- 最終発表会に向けたプレゼン準備

DAY8 (9月10日)

- 最終発表
- クロージングセレモニー
- チュラロンコン大学による送迎ランチ会



チュラロンコン大学教授による講義



ディンデーン高齢者施設でのインタビュー



現地ヒアリング調査

貧困地域の高齢者にインタビュー 相手を知るには自己開示も必要だと学んだ

参加プロジェクト:タイプロジェクト

父の仕事の関係で4年間タイに住んでいたのですが、コロナ禍もあり、現地の課題や問題についてよく知らないまま帰国しました。もっとタイの社会問題について知りたいと思い、このプロジェクトに参加しました。事前準備として、2回生から第2外国語でタイ語を学習、また、チームメイトとの文献調査を通して、タイでも高齢化が問題になっていると知りました。そこで、地域社会と住宅環境が与える高齢者の生活の質への影響を、バンコク・ディンデーン地域の貧困層高齢者に焦点を当てて調査することにしました。

現地では、地域の公営施設で、施設利用者を対象にインタビュー調査を実施。当初、現地大学院生のサポートを受けながら進めていましたが、次第に自らタイ語で自己紹介を行い、少し会話をしてから本題に入るよう意識した結果、よりスムーズに会話をすることができました。調査時は、まず自分のことを伝えて、相手を知らうとする姿勢が大切だと実感しました。

また、高齢者のリアルな声を聞いたことで、データではわからない問題も理解することができ、フィールドワークの重要性を再確認しました。CRPS生(本学英語基準学生)とともに、英語開講のプロジェクトでグループワークに挑戦した経験などを活かし、将来は、海外で活躍できるような仕事に就きたいと考えています。



大音 摩琴さん

政策科学部 政策科学科3回生
タイ王国 International School
Eastern Seaboard 出身

03 グローバルに学ぶ

学びの特色

国際的視野を獲得し、よりよい世界を創造するための解決策を探る

政策科学を学ぶうえで、異なる文化や価値観を理解し、国を超えた視点で問題をとらえる国際的視野は不可欠です。政策科学部では、国際的視野を獲得するためのカリキュラムを4年間の学びの中に組み込んでいます。

政策英語科目 (EPS: English for Policy Science)

政策科学部では「英語を学ぶ」のではなく、政策科学にかかわるトピックや研究方法を「英語で学ぶ」ための科目を展開しています。政策英語科目は使用言語やアクティビティの内容により、以下の3つのタイプに分かれます。

Type A

授業の使用言語がすべて英語

授業をすべて英語で行うので、留学を希望する学生にとっては、必要な力を養う機会となります。また一部の科目は英語基準の留学生と同じクラスで学ぶので、国際交流を実践する場になります。

Type B

英語文献・専門書の講読

入門レベルから高度に専門的なものまで、政策科学の学習に必要な基本概念、理論、争点を概説する英語文献を講読します。また、授業によってはアカデミックな英語のリスニングを行います。

Type C

PBL 型の英語学習

学習の成果物をが社会貢献に結びつくような PBL 型(問題解決型学習)の授業を行います。大学の広報動画に字幕をつけるなど、外国人にとって有用な情報を英語化するプロジェクトがあります。

Community and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻

政策科学部では、日本語を基本としたカリキュラムを行う「政策科学専攻」と、すべてのカリキュラムを英語で行う「Community and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻」の2つの専攻があります。CRPS 専攻では、さまざまな国や地域の学生が集まり、それぞれの国や地域が抱える諸課題を共有しながら学びを深めていきます。

政策科学専攻の学生も一定の語学基準を満たせば、CRPS 専攻の科目を受講することができます。CRPS 専攻生と交流しながら学ぶ科目(「Cross Border Policy Issues」)もあります。

また、政策科学専攻の学生と CRPS 専攻の学生との交流イベントを実施しており、授業外においてもグローバル・ダイバーシティな環境を提供しています。



学部独自の留学制度

立命館大学では全学部の学生が参加できる留学プログラムを実施していますが、政策科学部では政策科学部生のみが参加できる学部独自の留学プログラムも実施しています。英語をはじめ、中国語、朝鮮語、イタリア語といった初修外国語の運用能力を伸ばす機会も提供しています。

交換留学 (半年または1年)

中国 …… 東北財経大学(中国語)
タイ …… マヒドン大学(英語)
韓国 …… 国民大学校(朝鮮語)、韓国海洋大学校(朝鮮語)
イタリア …… ベルガモ大学(イタリア語、英語)

グローバル言語科目 (LGA: Languages for Global Actions)

英語だけでは現代の政策課題を考えることはできません。

複数の言語を用いてコミュニケーションが行えることは、異なる文化や価値観を理解するうえで非常に重要です。

政策科学部では、10の語種から1つ選んで学習するグローバル言語科目(LGA)を展開しています。

グローバル言語科目で得た言語運用能力を活かし、海外調査実習に取り組みます。



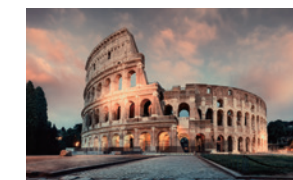
Deutsch
ドイツ語



Français
フランス語



Español
スペイン語



Italiano
イタリア語



Русский язык
ロシア語



10 語種から 1 語種を選択



中文
中国語



한국어
朝鮮語



ภาษาไทย
タイ語



Tiếng Việt
ベトナム語



Bahasa Indonesia
インドネシア語



語学力や多角的に物事を捉える力に加え、 挑戦心と最後までやり遂げる粘り強さが培われた

参加プログラム: 交換留学(学部独自)

派遣大学: 韓国・国民大学校(2025年3月～2025年12月)

大学2回生の時に参加した日韓プロジェクトで韓国を訪れ、歴史や文化を深く学びたいと考えようになり、留学を決意しました。留学先では主に韓国や日本の近代史、日韓関係などの講義を受講。韓国の人々が日本



ルームメイトと江陵旅行

本の統治時代をどのように捉えているのかを学び、韓国側の視点から日本近代史を見直す中で、物事を多角的に捉える力が養われました。語学面では、授業とは別に、日韓合同で互いの言語を教え合う勉強会を開いて切磋琢磨した結果、目標の TOPIK(韓国語能力試験)最上級に合格。オーケストラサークルに参加したのも素晴らしい経験で、ともに厳しい練習に励んだ仲間と強い絆を築くことができました。挑戦心や、最後までやり遂げる粘り強さが養われたのも大きな成果です。

就活でも、これらの力を活かして志望企業から内々定を得ることができました。卒業論文では、現地での学びをさらに深め、「日韓の歴史認識の違い」の研究に取り組む予定です。



竹田 瑠衣さん

政策科学部 政策科学科4回生
大阪府・清教学園高校出身

4年間の学び

1 回生

春学期

秋学期

2 回生

春学期

秋学期

3 回生

春学期

秋学期

4 回生

春学期

秋学期

学びの流れ

政策科学演習科目

PAGE 5・6

学術俯瞰科目

政策科学基礎科目

政策科学科目（専門科目）

政策英語科目

「発見」

多角的な視点を養う

基礎演習

プロジェクト入門

ヴィジョン科目

情報技法科目

統計学

プログラミング

データ分析

フィールド調査法

地域空間分析

など

政策科学基礎科目

公共政策

サステナビリティ学入門

まちづくり入門

憲法

現代経営学入門

など

グローバル言語科目

ドイツ語

フランス語

スペイン語

イタリア語

ロシア語

中国語

朝鮮語

タイ語

ベトナム語

インドネシア語

から1語種

政策科学にかかわるトピックや研究方法を「英語で学ぶ」科目です

政策英語科目

PAGE 9

「調査」

フィールドワークで現場を調べる

PAGE 7・8

研究実践フォーラムⅠ

研究実践フォーラムⅡ

「探求」

ゼミナールで興味のあるテーマを探る

政策構想演習Ⅰ

政策構想演習Ⅱ

政策科学の学びに必要な幅広い視野と教養を養うための科目です

情報処理および社会科学的な分析技法を講義と演習によって学びます

政策科学科目（専門科目）を学ぶための基礎的な視点と知識を講義によって学びます

「公共政策系」「環境開発系」「社会マネジメント系」の3つの学系を自分の関心に応じて系統的・横断的に学びます

「発信」

学びの成果を社会へ発信する

政策構想演習Ⅲ

学士論文

イラスト

2025年度 学士論文テーマ一例

公共政策系

- 学校運動活動の地域移行に関する一考察
- 行動経済学ナッジ理論を用いた歩行者通行誘導の実証研究
一大規模都市空間における群集行動と巨視的パターンの補助的分析一
- 単身学生のシビックプライド醸成に資する地域参加プログラムの有効性
～学生と地域の連携に着目して～
- 和洋折衷の美一日本独自の住まい方

環境開発系

- 韓国音楽業界におけるファンダムの行動と労働環境改善への影響に関する研究
- 観光参道における言語景観の象徴性とブランディング
—平等院表参道と銀閣寺参道の比較から—
- 森林環境譲与税と環境倫理的な観点から行う都市における
森林・里山政策の評価研究
- ベトナム・ハノイにおける住民の
都市火災への減災・防災行動意図に影響を与える要因

社会マネジメント系

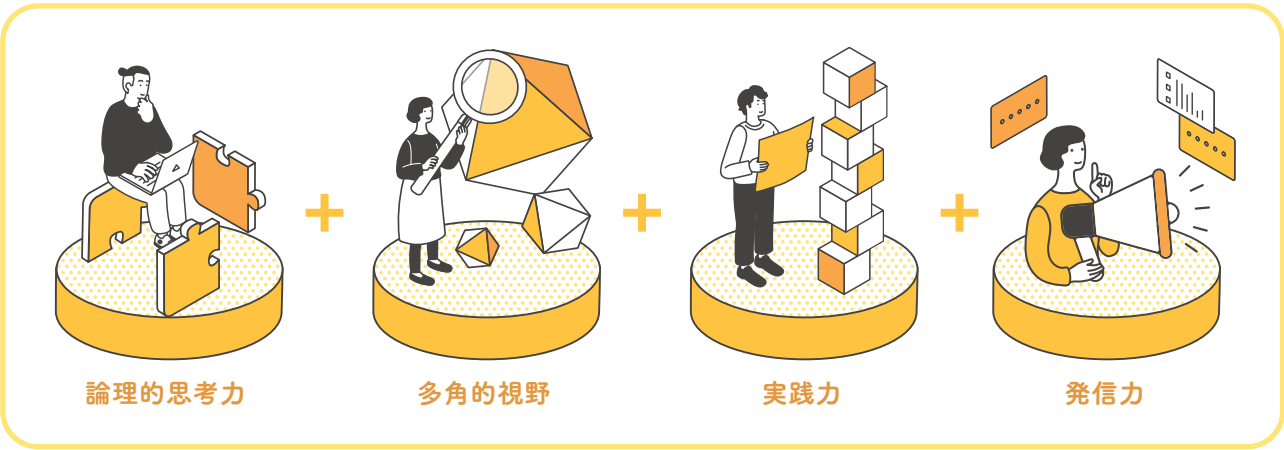
- 東証再編による市場区分がもたらす企業への影響について
～プライム市場からスタンダード市場へ移行した企業に焦点を当てて～
- グローバル・バリューチェーンにおける経済的・社会的アップグレードに関する
ステークホルダーの取組みのシステム分析ーインドネシア・カカオ産業の事例ー
- 労働者概念のあり方に関する研究ーフリーランスの多様化の観点からー
- 育児と仕事の両立支援制度によって生じる「しわ寄せ」の実態と対策
ー医療現場で働く臨床検査技師の調査からー



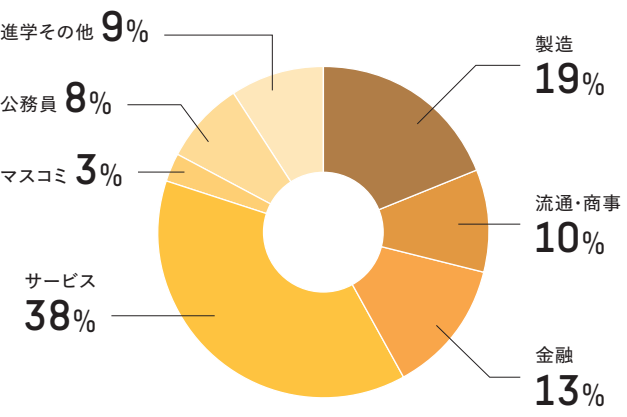
進路・就職状況

カリキュラム体系のほとんどがキャリアデザインとも言える政策科学部。
政策科学部での4年間の学び・経験を活かし、多くの卒業生が社会で活躍しています。

政策科学部で身につく力



2025年度卒業生 業種別進路決定状況



就職決定率 **97.2%**

大学院進学先
立命館大学大学院 経営管理研究科／立命館大学 法科大学院
／立命館大学大学院 政策科学研究科／京都大学大学院 経済学研究科／京都大学大学院 農学研究科／早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科／東北大学大学院 環境科学研究科 ほか

2025年度卒業生 進路・就職先一例

国税専門官	住友林業(株)	(株)乃村工藝社
労働基準監督官	全国農業協同組合連合会	(株)ペイカレント
国家公務員一般職(法務省)	双日(株)	(株)堀場製作所
国家公務員一般職(気象庁)	(株)ZOZO	(株)みずほフィナンシャルグループ
地方公務員(上級職)	東海旅客鉄道(株)	(株)三井住友銀行
有限責任あずさ監査法人	東京エレクトロ(株)	(株)Mizkan J plus Holdings(ミツカン グループ)
アクセントチュア(株)	東京電力ホールディングス(株)	(株)三菱UFJ銀行
アビームコンサルティング(株)	TOTO(株)	(株)村田製作所
アマノ(株)	TOPPAN ホールディングス(株)	森永製菓(株)
ANA(全日本空輸(株))	西日本旅客鉄道(株)	(株)りそな銀行
(株)NTTドコモ	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)良品計画
関西電力(株)	(株)日本政策投資銀行	YKK AP(株)
Sansan(株)	日本年金機構	ほか
住友化学(株)	日本郵便(株)(日本郵政グループ)	(50音順)

2025年度公務員決定者数

国家公務員

9名

● 国税専門官
● 労働基準監督官
● 国家公務員一般職
 ・法務省
 ・防衛省
 ・気象庁
 ・家庭裁判所
ほか

地方公務員

22名

● 大阪府
● 三重県
● 茨木市
● 京都市
● 生駒市
● 柏原市
● 阪南市
● 愛知県
● 大阪市
● 神戸市
● 淡路市
● 近江八幡市
● 塩尻市
ほか

行政政策プログラム(PAP:Public Administration Program)

政策科学部では、重要な政策過程の現場である公務員分野への進出を目指す学生に対し、「行政政策プログラム(PAP)」を提供しています。
本プログラムでは、4 回生時に公務員採用試験を受験できるように、公務員試験に必要な法律学・政治学・行政学の基礎と発展を3回生終了時まで習得します。



MESSAGE / 卒業生からのメッセージ



愛知県庁 尾張県民事務所総務県民課
(政策科学部 政策科学科 2022年卒業)

住民一人ひとりの生活を支える仕事 多様な分野に挑戦できるのが面白い

法令に基づき、公平性を担保しながら、住民一人ひとりの生活をさまざまな側面から支えられる仕事に惹かれ、公務員を志望しました。大学進学を機に故郷の愛知県を離れたことで、改めて愛知県の魅力を認識し、その魅力を県内はもとより全国に伝える一助になりたいと思い、愛知県庁に入庁しました。愛知県全体に寄与するような大規模な政策の立案・実行に関われることや、部署によって多様な分野に挑戦できるところに魅力を感じています。入庁後は、児童家庭課で、ひとり親の低所得の方向けの支援手当の支給業務や「シングルマザーサポートブック」の作成など、さまざまな事情を抱えた子どもやその家庭を支援する業務に携わりました。現在は尾張県民事務所総務県民課に所属し、所内の収入や支出における審査業務や、市町村独自の政策に対する補助金交付業務などに取り組んでいます。

さまざまな視点を持った学生と議論することで 多角的な視点や調整力が身についた

高校生の時から現代社会の問題解決に関心を持っていました。進路

を考えた時、立命館大学政策科学部の「多角的な視点を養い、さまざまな問題を解決する」という理念に共感し、進学を決めました。大学の授業で驚いたのは、グループワークの機会がたくさんあることです。さまざまな視点を持った学生と議論を重ね、その中からより良い答えを導き出す経験を重ねる中で、多くの人をまとめる調整力が身につきました。こうした力は今、上司や周りの同僚とさまざまな課題について議論する時に役立っています。

インドネシア語の習得や 公務員試験勉強に取り組んだ大学時代 今も大切にしているのはチャレンジする気持ち

思い出に残っているのは、第二言語でインドネシア語を学んだことです。2回生の冬にインドネシアでボランティア活動を行った際には、現地の人とインドネシア語でコミュニケーションを取ることができ、学びの成果を実感しました。2回生からは公務員を目指す決意を固め、受験科目でもある法律や経済学などの授業を積極的に受講しました。現在の業務では、行政法や行政手続法などさまざまな法律が欠かせません。大学で基礎的な法律知識を学んだおかげで、それらの法令にも抵抗なく向き合うことができていると感じています。仕事に就いた今も、チャレンジする気持ちを大切に、現在は、業務の効率化を図るべく、Excelのマクロ機能の習得に取り組んでいます。

困難な道を選び、努力したことは必ず活きる 迷ったら、いばらの道を進もう

立命館大学に進学して良かったことは、チャレンジ精神を持って何事にも主体的に取り組む学生とたくさん出会えたことです。そうした学生と共に学ぶ中で刺激を得て、自分自身も成長することができました。後輩の皆さんには、「迷ったら、いばらの道を進もう」と伝えたい。困難な道を選び、努力したことは、将来必ず活きてきます。何より自分自身が誇りを持って前に進む力になると思います。

2018年4月、政策科学部に入学。公務員を志望し、2回生から勉強を開始。2022年4月、愛知県庁に入庁。福祉局児童家庭課に配属され、ひとり親家庭やその子どもの支援業務に携わる。2025年、尾張県民事務所総務県民課に異動。事務所内の経理関係業務や補助金交付業務に従事する。